

## 平成八年度第二回企画展

## 「民本主義」の八十年

三月九日（日）まで開催中

吉野が「民本主義」を主張して八十年。「民本主義」、それは、本人の意向をこえて同時代に様々な問題を投げかけました。企画展Ⅱ「民本主義」の八十年Ⅱでは、「民本主義」を東北、キリスト教、選挙、社会現象など様々な側面からとりえ、その多様な意味合いと本質について考えられています。

## プロローグ

## 「民本主義」とは

## 1 「民本主義」の出発地

東北地方は、吉野が思想形成をした場であると同時に、大正デモクラシーの担い手を数多く輩出しています。それは、明治新政府で活躍の場がなかった東北地方出身者であるがゆえに、大正デモクラシーが主張されたという必然性もあったと考えられます。ここでは、東北という地域と「民本主義」との関わりを、東北地方出身の人々を通して紹介します。

## (1) 宮城県と民本主義

千葉卓三郎、内ヶ崎作三郎、小山東助、鈴木文治、栗原基、布施辰治

## (2) デモクラシーの東北

滝田樗陰（秋田県）、阿部次郎（山形県）、新渡戸稲造（岩手県）原敬（岩手県）



## 2 「民本主義」とキリスト教

Democracyの訳語である「民本主義」は、欧米で有力な宗教であったキリスト教の影響を深く受けています。自身がキリスト者でもあった吉野と「民本主義」との関係を通じて、キリスト教から受けた思想的影響を考えます。

## 3 「民本主義」と選挙

「民本主義」は実際の政治とどう関わったでしょうか。吉野の主張と、内ヶ崎作三郎、小山東助など吉野と親しかった政治家の言動から紹介します。

## 4 「民本主義」と社会現象

新聞雑誌や漫画、歌などに表現された「民本主義」を通して民衆への浸透の具体的な様子を紹介します。

## 5 歴史の中の「民本主義」

「民本主義」は歴史的な状況の産物という面が強かったためか、激動する日本の現代史の中で評価自体影響を受け変化します。これまでの評価のありようと、将来のあるべき姿を展望します。